

氏名	石嶺 ちづる		
学位の種類	博士（教育学）		
学位記番号	博乙第 2940 号		
学位授与年月	令和元年10月31日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	アメリカのハイスクールにおける職業教育改革の展開と 「職業教育」準備プログラムの開発に関する研究 -南部地域教育連盟の High Schools That Work を事例として-		
主査	筑波大学教授	博士（教育学）	藤田 晃之
副査	筑波大学教授	博士（教育学）	樋口 直宏
副査	筑波大学准教授	博士（教育学）	田中 マリア
副査	筑波大学教授	博士（教育学）	藤井 穂高

論文の内容の要旨

石嶺ちづる氏の博士学位論文は、安定的な雇用と収入の確保を保障する職業的な知識・スキル・コンピテンシーの獲得のための指導・支援が後期中等教育段階においてとりわけ重要であるとの前提にたち、1990年代以降のアメリカのハイスクールにおける実効性のある「職業教育」準備プログラム開発の構造と特質を明らかにしたものである。その要旨は以下の通りである。

序章において著者は、問題の所在を明確に提示し、先行研究の分析を経た上で、本研究の中核的な分析対象を南部地域教育連盟 (Southern Regional Education Board : SREB) が 1987 年から実施する「職業教育」準備プログラム「High Schools That Work : HSTW」とする必要性・必然性を含めた本研究の意義を詳細に論じている。その上で、研究課題として、(1) 連邦職業教育改革の展開に見る「職業教育」準備プログラムの理念的特質の解明、(2) ハイスクールにおける「職業教育」準備プログラムの特質の解明、(3) HSTW におけるプログラム・オブ・スタディの特質の解明、(4) ハイスクールにおける「職業教育」準備プログラムの実践的な特質とプログラム開発の意義の検討、を設定している。

なお、これら4点の研究課題に対応する本論文における論考は、研究課題 (1) については第1章から第3章において、研究課題 (2) については第4章から第6章において、研究課題 (3) については第7

章・第8章において、研究課題(4)について第9章においてそれぞれなされている。

まず、第1章において筆者は、アメリカにおける「職業教育」準備プログラム開発の背景を分析し、「職業教育」が高等教育化した結果、教育・訓練の量的過剰が起こるようになった一方で、ハイスクールにおける教育・訓練の質的不足が起きたことがその中核的な背景であることを明らかにしている。第2章では1990年代以降の職業教育改革の政策的展開過程について詳細に整理している。ここで筆者は、関連施策の焦点が、特定の職種ごとの高大連携方策である「テック・プレップ」から、「職業教育」と「職業教育」準備プログラムを連続性のある相対的なプログラムとして位置づける「プログラム・オブ・スタディ」へと移り、2010年代初頭には改革の中心はプログラム・オブ・スタディに転換されたことを明らかにしている。第3章では、「テック・プレップ」から「プログラム・オブ・スタディ」への転換の中で、「職業教育」準備プログラムに不可欠な要素として **rigor** (学習の質保証)、**relevance** (実社会との関連性)、**relationship** (学習環境を整備するための連携) で構成される「新しい3R's (New 3R's)」が位置付けられるようになった過程を具体的に示している。

続く第4章・第5章・第6章では、アメリカのハイスクールにおける「職業教育」準備プログラムの特徴が解明されている。第4章において筆者は、本研究で中核対象とされた **HSTW** の創設の経緯とプログラムの理念の特質について分析し、具体的な7つの目標 (Goals) と、その達成のために生徒に課す推奨カリキュラム (**HSTW Recommended Curriculum**) が設定されたことが、プログラムの発展につながったことを明らかにしている。第5章においては、**HSTW** の中核的要素である統合カリキュラムに焦点を当て、統合学習 (**integrated learning**) の捉え方、および、当該プログラムにおける統合カリキュラム開発の特徴を明らかにしている。第6章では、学校でも教育行政機関でもない組織である **SREB** が、州教育省や学区教育委員会の教育政策立案・実施に対する支援や、実践校における具体的なカリキュラム開発に対する具体的な支援を提供している点が、「職業教育」準備プログラムの先駆的な事例として **HSWT** が高い評価を得ている要因であることを特定している。

さらに、第7章・第8章では、**HSTW** における「プログラム・オブ・スタディ」の特徴を浮き彫りにしている。第7章では、**HSTW** における「プログラム・オブ・スタディ」として2014年から開始された **Advanced Career** プログラム (**AC** プログラム) の特徴を明らかにしている。具体的には、**AC** プログラムが、プロジェクト学習 (**Project Based Learning : PBL**) を通して、大学進学に対応できる高度な内容のアカデミックな知識、安定した雇用と賃金を確保できるレベルの職業的知識・スキル、基礎的・汎用的能力の3つの獲得を目的とするプログラムとしての特徴を備えていることを浮き彫りにしている。第8章では、**AC** プログラムの典型的実践例としてサウスカロライナ州応用職業教育センターにおける実践を取り上げ、当該**AC** プログラムでは、**PBL** を通じた学びの深化に重点が置かれていること、上級レベルのアカデミックな科目に匹敵する高度な内容のプログラムとして職業教育が提供されていることを示した。

そして第9章において筆者は、それまでの各章での分析を踏まえつつ、アメリカのハイスクールにおける「職業教育」準備プログラムの特徴を整理し、当該プログラム開発の意義と日本におけるプログラム開発に対する示唆を考察している。さらに終章で筆者は、本論文が提示した研究の到達点を踏まえて、アメリカにおける「職業教育」準備プログラム開発に関する研究の今後の課題として、(1) 連邦施策の展開を踏まえた改革の進展の検討、(2) **HSTW** および **AC** プログラムに関するさらなる事例の検討、(3) 本研究で導出した「職業教育」準備プログラム開発の要件の有効性の検証を挙げている。

審査の結果の要旨

(批評)

石嶺ちづる氏の論文は、青年期教育の最重要課題の一つである「学校から職業生活への移行 (school-to-work transition)」を支えるための教育制度の在り方を究明するための研究の一環に位置づくものである。とりわけ、(1) 技術革新等の影響により「職業教育」が高等教育化した結果、教育・訓練の量的過剰が起こるようになった一方、ハイスクールにおいては当該教育・訓練の質的不足が起きたことがアメリカにおける「職業教育」準備プログラムの開発を促す中核的な背景となったことを明らかにした点、(2) 「職業教育」準備プログラムに不可欠な要素として rigor、relevance、relationship で構成される「新しい 3R's」が位置付けられるようになった過程について詳細に跡づけつつ分析を加えている点、(3) アメリカにおいて高く評価される「職業教育」準備プログラムである南部地域教育連盟 (SREB) による「High Schools That Work : HSTW」が、統合学習を中核としたカリキュラム開発によって構築され、それが①プロジェクト学習を通して大学進学に対応できる高度な内容のアカデミックな知識、②安定した雇用と賃金を確保できるレベルの職業的知識・スキル、③社会的・職業的自立にとって不可欠な基礎的・汎用的能力についてのバランスのとれた育成プログラムにまで発展を遂げていることを明らかにした点は、当該分野の研究蓄積に大きく貢献するものとして高く評価することができる。

令和元年9月6日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、学力の確認を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。